

げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2001 第10号 SUMMER



- 全国高等総合文化祭
03福井大会準備着々
- 若狭路文化フォーラム
～21世紀のふるさとの祭りを考える～
- 福井市橘曙覧記念文学館訪問
- 高浜「七年祭」をみる

CONTENTS

- ・全国高校総合文化祭
'03福井大会準備着々…………… P2・3
- ・若狭路文化フォーラム
～21世紀のふるさとへの祭りを考える～…………… P4・5
- ・福井市福井記念文学館訪問…………… P6・7
- ・高浜「七年祭」をみる…………… P8・9
- ・13年度財団助成事業決まる…………… P10
- ・敦賀市立博物館所蔵
逸品絵巻誌上展5…………… P11
- ・「トイズ」福井の文学碑
詩人 三好達治(三好町)…………… P12
- ・ムクいの伝統芸能「じじぐれ祭り」…………… P13
- ・情報ファイル…………… P14・15

表紙の説明

三国祭

(坂井郡・三国町)



人形山車 町内を練る

三国町山王6丁目にある三国神社は、大山時命と地母天皇を祀った神社です。同神社の祭礼「三国祭」は、高岡の御車山祭、七尾の青柏祭と並んで北陸三大祭りの一つに数えられ、本年も5月19日から21日に行われました。祭りの最大の見物は、中日に行われる高さ6米に及ぶ巨大な武者人形の山車行列です。町内を笛、太鼓、三味線のおはやしとともに練り歩く勇壮な姿は、県内外から詰めかけた多くの見物客を湧かせました。

今年奉納された山車は次の6基です。

- ・森町区：北輝時宗 玉井区：加藤清正
- ・滝谷区：上杉謙徳 上西区：新田義貞
- ・元新区：関羽善長 上街区：越前屋徳之助と飛脚亀吉

2003

全国高校総合文化祭 福井大会へ準備着々

大会ポスター・マスケットなど決まる

2003年夏に第27回全国高校総合文化祭が福井県で開催されることが正式に決まり、県教委や県高校文化連盟などは、6月6日、実行委員会を立ち上げ、大会の基本方針や事業計画などを決定しました。また、大会ポスターやマスケットキャラクター、イメージソングなどが発表され、大会への本格的な準備が着々と進められています。

大会ポスター最優秀賞に選ばれて

福井工大付属福井高校
3年 中村 悠記子



このたびの受賞で、私が一番嬉しかったのは、受賞そのものの喜びよりも、自分の描いたポスターの原画が全国に張り出されるということでした。芸術科アートデザインコースに在籍して、これほどまでに嬉しいことはそ

うはないと思います。この原画は、先生や友人、家族の意見を参考にしながら何度も手直しをしました。ポスターは、絵画などと違い、自己の表現よりも他人にどうみられるかが重要だと常日頃から考えているからです。適切な意図や欠点を指摘し、支えてくれた周りの人たちに感謝の気持ちで一杯です。これからも、怠ることなく、日々精進したいと思います。

チングバンドなどのパレードが行われます。

席上、昨年県内の高校生から公募した大会ポスターの原画に、中村悠記子さん(当時福井高2年)の作品を採用。

マスケットキャラクターは、藤澤麻美さん(同・丹南高2年)の原画を採用し、イメージソングは河合昌弘日香さん(同

羽水高3年)が名付けた「リュウリユウ」が採用されました。また、野

村麻美さん(同・武生高1年)が作詞、藤木勝利さん(同・敦賀高3年)が作曲したイメージソング「未来」を羽

水高校合唱部が披露しました。



全国高校総合文化祭で使われるポスターの原画

実行委員会では、この大会の基本方針として▽高校生が自ら創り上げる感動に満ちた大会▽福井の魅力在全国にアピールする総合文化祭などを目指すことを決めました。計画では、大会は8月8～12日の5日間、県内20会場で開催。演劇やダンス、吹奏楽、美術、将棋など16部門に、全国から高校生約1万6千人、教員約2千五百人が集い、発表や展示、競技が繰り広げられます。初日はサントーム福井(武生)で総合開会式を、福井市では、参加校のマ



藤澤麻美さんの作品
(丹南高校2年)

Yoshitaka Kawa (Fukui)



平成12年8月2日＝武生市文化センター

全国高校総文祭 '03福井をめざして

2001
第12回

福井県高校 総合文化祭

テーマ きいてみよう波の音 雪の音 心の音

総会開会式 福井市フェニックスプラザ

2年後に決まった全国高校総合文化祭福井大会の成功に向け、県内高校の文化活動にも励みと熱意がこもってきました。

県高等学校文化連盟では、本年度は第12回福井県高等学校総合文化祭のテーマに「きいてみよう 波の音 雪の音 心の音」(平成12年度羽水高校3年・齋藤由美さんの作品)を掲げ、全国大会への布石にしようとして、各校生による芸術文化活動の各部門の発表会を総合的に開催し、創造的・質的向上と相互の交流を深めることにしています。また、第12回県総文祭の公募ポスターの最優秀賞に福井商業高校2年・鹿島葵さんの作品を選定し、本年度の大会を盛り上げるための啓発に努めることにしています。大会行事では、8月1日に第12回県総文

県高文連会長に 就任して

福井県高等学校文化連盟
会長(羽水高校長) 堀 治市氏



福井の地において、全国規模の高校生による文化の祭典が開催されることは、初めてのことであり、県内高校生の芸術・文化活動の更なる活性化や各人の技量向上が、文化祭の成否を画するといっても過言ではありません。それ故に県高等学校文化連盟の果たす役割は大きく、会長としての責務を痛感しています。

さて、多感な高校生の時期にこそ、知・徳・体の均衡ある人格の陶冶は欠かせません。とりわけ芸術・文化活動と接することは豊かな感情を育む上で重要な位置を占めています。そしてまた芸術・文化活動は感性を磨く最良のプロセスでもあり、豊かな人間性の確立に繋がることだと認識しています。昨今の混迷する社会を顧みると、芸術・文化活動の積極的な展開の中に安定と繁栄をキーワードとした新たな社会のパラダイムが見えてくるような気がしています。この意味においても全国高校総合文化祭福井大会は大きな価値を持っていると思います。

文化祭日程・会場

文化祭名称	開催期日	会場
第12回県高等学校総合文化祭総会開会式	8月1日(水)	福井市フェニックスプラザ
第55回高校演劇祭	9月21日(金)～24日(月)	美山木こころ文化ホール
第3回県高校かるた大会	9月24日(月)	三国町社会福祉センター
第10回将棋新人県大会	11月10日(土)	福井新聞社
福井フェスティバル	合唱・器楽管弦楽	県立音楽堂
	吹奏楽	鯖江市文化センター
	マーチング	鯖江市体育館
	日本音楽・郷土芸能・民俗劇時期	武生市文化センター
美術・書道・写真展	11月18日(木)～4日(日)	福井県立美術館
新聞展	11月18日(木)～4日(日)	鯖江市書協会館
アナウンス及び番組制作技術講習会	11月8日(木)	敦賀市プラザ萬象
第21回秋季囲碁大会	11月18日(日)	福井棋院会館



第12回県総文祭ポスター
鹿島葵さん(福井商2年)の作品

文祭総合開会式を福井県で開かれる第25回全国高校総合文化祭出場者の壮行会を兼ね、福井市のフェニックスプラザで、県内高校から約300人が参加して盛大に行われます。部門別文化祭では9月21～25日、美山町木こころ文化ホールで高校演劇祭を開催するのを皮切りに、かるた大会、将棋新人県大会、秋季囲碁大会を開くほか、11月1

日～4日までの4日間、県立美術館で美術・書道・写真展を開催することになっています。また、今年の音楽フェスティバルは、11月14日、部門別に4会場で開催することとし、器楽管弦楽はハーモニーホールふくい(県立音楽堂)で、吹奏楽とマーチングは鯖江市の2会場で、日本音楽・郷土芸能・吟詠刺詩舞は武生市文化センターで行い日頃の練習の成果を披露することになっています。

本年度の派遣事業では、福井県で開かれる第25回全国高校総合文化祭に、19部門、延べ46校、約300名の高校生が派遣されることになっており、2年後の全国総文祭福井大会に繋げる芸術・文化活動の技量向上と相互の交流を図ることになっています。

「21世紀のふるさとの祭り」を考える

若狭路文化研究会が2年がかりで取り組んできた「県神若狭編・論南版」の発行を記念して「21世紀のふるさとの祭り」をテーマに若狭路文化フォーラム（同研究会主催、当財団協賛）が5月19日、小浜市の県若狭図書学習センターで、祭りなどの保存会や文化関係者ら約100人が参加して開かれました。最初に、民俗学の第一人者、神奈川大学の福田アジオ教授が「日本のなかの若狭のムラ―その成り立ちと暮らし」と題して講演。次いでパネルディスカッションでは、同研究会金田会長をコーディネーターに、4人のパネリストがそれぞれの立場で伝統芸能について語りました。

「長幼の序」を原点に 変化対応して新文化へ



金田 久璋氏
若狭路文化研究会会長

金田氏「戦後55年が過ぎ、敗戦の傷手は、社会的に今なお深いものがあります。嶋長明が『方丈記』（1212年）で「故郷（郷）はすでに荒れて、新都々たならず」といわれましたが、戦後の日本の姿もそのものといえます。戦後目覚ましい経済成長を遂げましたが、その反面精神文化は失われたままです。最近徐々に日本人の誇りをとりもどす風潮も出はじまりましたが、いまだ暗黒期にあるといえます。昔は「長幼の序」という礼儀がありました。いわゆる年長者と年少者、大人と子供など人間関係の美徳を保つモデルで、今やこの美徳は失わ



「21世紀のふるさとの祭り」をテーマにパネルディスカッション
—小浜市・県若狭図書学習センター—

伝統芸能をどう継承するか

変化を恐れない民俗文化の継承を

基調講演「日本のなかの若狭のムラ」骨子



神奈川大学
福田アジオ教授

▼35年前、若狭地方民俗総合調査（團長和歌森太郎）の一員として参加し、●ほぼ全域に見られる両墓頭、●大島のニソの社の通説への疑問などに当時強い興味を持ち、強烈な印象をうけました。
▼日本のなかの若狭は「家の形態や規模などの景観面」「村落組織などの社会面」や民俗などからみて近畿に近く、その特徴として、集落、家々の姿、豊かな民俗芸能、宮座制度などがあげられます。

▼若狭地方は、一方で日本海地方（北陸）との接点を持ち、特徴として、家単位の親方小方制度や縁の定期的な長閑な踊りなどはその典型といえます。
▼地域の個性と民俗文化から若狭らしさを見ると、日本海地域と近畿地方の結節点にあり、列島東西の融合した民俗文化が継承されています。
▼伝統芸能など「伝統」は必ずしも古くからのものではない。「伝統」をそのまま残すことは必要ではなく、地域の個性面で付け加えていくことがあってよいのではないかと。
▼神奈川先生の「昔風と当世風」の指摘をかみしめ、地域の結集と連帯の場の中で変化を恐れない民俗文化の継承を考えることも必要だ。

てっせん踊りの復活 地元の熱意な意気

れてきました。福田先生の講演にありました「宮座」制度も若狭ではほとんど解体されてしまいました。「伝統は必ずしも古いものではない。時代の流れに応じて祭りや行事は変わっていくもの」という考え方も順応しながら「伝統を守る力、新しいものを加えていく力、これからの働きを交叉させながら創意工夫をこらして民俗芸能を維持、発展させることが大切だ」と思います。



水江 秀雄氏
県立若狭歴史民俗資料館嘱託（民俗学）

新しい町づくりも加わって広く注目されています。これにあわせて「てっせん踊り」の復活があります。江戸時代から大正時代まで毎年盛況の中に優雅な盆踊りが継承されていたといわれ、私は昭和38年頃からこの踊りに興味をもち調査、研究に励んでき

永江氏「小浜を出発点とする「騎街道」が最近よく紹介されるようになり、全国的に脚光を浴びています。その代表的なコースは、期川宿（現上中町）を通過し、遊覧果、京都へと行く若狭街道です。かつて宿場町として賑わった期川宿は、文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」として、又「歴史街道」や「水の郷百選」などに選定され

ました。その後「鉄仙踊り」賞讃集の発行、「芸能史研究」への発表、現に京都の一乗寺などで伝承されている実態を知り、地元での強い復元気運も高まり、京都との交流も実現して、3年前「てっせん踊り」は見事に期川宿に甦りました。
80年振りの踊りの復活は、地元みなさんの強烈な意気が基盤となつていますが、加えて行政の援助、学者、研究者のバックアップ等、三者一体となった取り組みが今日の結実につながったと思つていきます。

祭りを町の活性化につなぐ



山田 敏氏
げんでんふれあい
福井財団専務理事

民俗文化を積極支援 助成制度の活用を

山田氏「げんでんふれあい福井財団は、福井県の文化振興とゆとりとふれあいのある地域づくりを目指し、3年半前に発足しました。特に福井の素晴らしい自然や歴史、文化を生かした地域文化の発展に寄与することを重点にしています。その一役として、郷土の伝統芸能などの保存、後継者育成などに支援する助成制度を設けています。又文化のまちづくりのための地域文化の醸成、継承活動にも支援し、過去4年間にこれらの活動をしている延べ89団体に1300万円程度の助成を行いました。

福井県の文化の原点は、郷土に培われた伝統芸能などの中に息づいているといわれており、これらの歴史・的遺産を大切に、これを基盤に新しい福井の文化を創造していくことが財団の仕事の一つと考えています。従って、財団の文化事業の中で、広報誌の発行やふるさと大賞写真コンテスト開催事業に民俗文化の紹介や後継者の育成、ふるさと意識を高める事業への支援などに力を入れ、信頼される財団の特色づくりを積極的に取り組んでいくつもりです。

若狭は民俗芸能の宝庫 地域ぐるみで活力を

垣東氏「祭りと文化の継承が、少子化、高齢化や過疎化の進展で、その持続に苦しんでおり、その町や村だけでやっていくことが難しくなっています。その打開策として外部の人達のサポートをうける対応が必要。例えば、学者などの意見や祭りの愛好者、取材写真家などから地元の価値観以外の良さを聴き、祭りのあり方を見直すことも大事だと思っています。北川幸三写真展「若狭の



垣東 敏博氏
県立若狭歴史民俗
資料館学芸員

民俗と祭り」を見て、大阪のある写真家が「本当の京都が若狭にある」と言われたことを聞き、若狭の祭りを誇りをもって継承していくことが大切です。そのために、本日のようなフォーラムや資料館の講座、地元の人達が参加できる交流の場を設けることが必要です。若狭には、感動をおたえる質の高い芸能が沢山残されており、「祭りがあから、この地を離れられない」という若狭人もいます。また、住民の祭りへの理解の強さもあります。祭りの持つ価値を地域ぐるみで見出していく作業と明日への活力につなげる方策を共に考えていきたいと思います。



80年振りに復活した龍川宿のてっせん踊り

神社明細帳 芸能行事の貴重な史料

岡田氏「研究会の初めての事業として『福井県神社明細帳―徳南編』発行の企画を提案し、全体の校訂を担当した立場から明細帳の見方や効用について紹介します。



岡田 孝雄氏
敦賀短期大学講師

この書は、明治12年6月、内務省の指令にもとずいて作成された「越前国神社明細帳」と「若狭国神社明細帳」をもとに現在の領南版として印刷、影印版として複製しました。本書では、神社の所在地、社格、社名、祭神、由緒、建物種類、境内坪数、

会場から真剣な発言

境内神社、信徒数を書き上げさせた帳簿です。

この明細帳を出すことによって、福井県領南地方の神社の江戸時代最後の姿、明治の出发点を同時にみることができると近代研究の資料として貴重なものといえます。本書利用のため「解説」や郡別村落地図、神社一覧表等を掲載しました。

今日まで若狭の豊かな民俗、祭事などの資料図書が市町史などで出されています。これらの図書とあわせて、明細帳をみていただければ更に郷土史の勉強に役立ちます。

郷土の神事芸能は社会の変化も見せてくれるものです。若狭の歴史を噛もって研究するために明細帳の活用を願ってやみません。

会場からの声として、明日の放生祭を考える会（小浜市）は、祭りが観光面が全面に出て、祭りの本質を大事にしたものが徐々に失われることがなやみです。しかし、祭りが元気であれば町も元気になります。

和久里王生狂言保存会の代表は、現在、青年会が中心ですが、次の開催には後継者が心配です。施設面では小島町の「福」の確保が将来とも課題です。また、池河内太鼓踊り（敦賀市）の竹田さんは、復活はしたものの村の行事でなく有志の行事となっており、継承していくためには、公民館で運営するなど抜本的方策をとらなくてはと訴えています。新しい町づくりのため天孫降臨の神話の立証研究を進める「トリム&ロマンの会（美浜町）」や若狭語り部の会から活動の紹介が行われるなど若狭路の芸能をどう継承するかを探る実りの多いフォーラムとなりました。

橋曙覧記念文学館訪問

福井県を代表する幕末の歌人で国学者、橋曙覧の業績を後世に伝えようと、昨年4月福井市愛宕坂(同市足羽1丁目)にオープンした福井市橋曙覧記念文学館を訪ねました。

貧しさの中で心豊かに生きた曙覧の生涯や歌の世界にふれ、郷土の歴史と文化の歩みの大切さを知ることができました。

たのしみは
朝おきいでて昨日まで
無かりし花の
咲けるみるとき、



文学館外観全景



「黄金舎の跡」碑

文学館の建てられた足羽山・愛宕坂のこの地は、曙覧が一時住んでいた「黄金舎」の跡といわれ、同館の玄関横壁にその跡碑が建てられています。黄金の色に因んで南側の庭には山吹が、また7本の松も植えられています。(別称「七松庵」ともいわれました)曙覧は28歳(一説に35歳)の時、

文学館は「黄金舎」の跡

平成6年6月、天皇・皇后両陛下が御訪米の際、当時のクリントン大統領が、歓迎スピーチの中で、橋曙覧の「独楽吟」の中の一首(上記の歌)を引用したことは、とても有名な話として伝えられています。

このスピーチでの引用で曙覧の名前がにわかになんか見聞され、親しまれる存在となりました。



「薬屋」復元コーナー

異母弟の宣に家業を譲り、ここ黄金舎に移り住み、37歳で福井の西の郊外の豪邸に回を移すまで、ここに隠棲していたといわれています。曙覧は、愛宕坂での暮らしを次のように詠んでいます。

阿須波山(足羽山)にすみけるころ
「あるじはと人もし問はば軒の松
あらじといひてふきがへしてよ」
(軒の松よ主は在宅かと尋ねてきたら不在だと行って追い返してくれ。)

(注)「阿」と「在」に「を」を掛けています。

敷地面積/870.24m²
建物構造/鉄骨造2階建



交通案内



「薬屋」復元コーナー

内閣

同館に入ると、1階左コーナーに、曙覧が37歳から37歳でなくなるまで居住した「薬屋」の一部を推定復元しています。ここでは、松平春嶽公が訪問した時の様子をミニチュアと音声で解説しています。

曙覧は、薬屋で21年間、家族とともに暮らし、清貧の中にあつて学問と作歌に励みました。元治2年(1965)2月、松平春嶽公が野遊びの途中、ここを訪れ、「志濃夫舎」と改めさせた逸話が有名です。薬屋の跡地は、現在、福井市照手2丁目、願乗寺西側に宅跡碑と「袖千の井戸」跡が残されています。

足羽山での生活は、水で苦労しましたがここでは井戸を掘ると清らかな水が湧き出ました。その喜びの歌を「湧らしし妹が袖千の井の水の湧きいづるばかりうれしかりけり」と詠んでいます。

パソコンコーナーも設置

2階への階段手前の一角にはパソコンコーナーが設けられ、曙覧クイズやよもやま話など子供たちが楽しく曙覧について学べるようになっていきます。

志濃夫遁舎歌集
肖像画・館藏品展示

第1展示室

館内の2階には、常設・企画の二つの展示室、図書閲覧室を配置。曙露の生涯や文学などを映像で学べるコーナーも設けられています。

第1展示室には、曙露に関する資料等が展示されており、書家として、また名文家、歌人として自筆の掛軸、短冊などが展示されています。当館の貴重な館藏品では、曙露の木版本歌集「橘曙露遺稿・志濃夫遁舎歌集」が目にとまります。

この歌集は、曙露の長男井手幸之丞が父親の歌集を整理して、明治11年(1878)に出版した木版和綴4冊物です。その歌集が「和歌の革新」を目指していた正岡子規の目に触れ、明治32年(1899)子規は曙露を万葉以来の歌人と激賞し、全国に知られたるきっかけとなりました。

掛軸では、曙露の生前唯一の肖像画が掲げられています。この画は、母の実家の間



第2展示室

第2展示室では、曙露の生涯や業績、周辺の人々等年譜、年表にし、パネルで紹介。室の中央には独楽吟52首をイメージシールドで表示し、歌詞を引き立てています。「独楽吟」は「楽しきは……」で始まり「……する時」で終わる形式の歌で、全部で52首の連作になっています。

独楽吟全52首イメージ
シールドで表示

第2展示室

係でよく通った府中郊外の本俣(現・武生市本俣町)で画家の越智透兄が曙露没年の慶応(1868)正月に書かれたそうて春嶽公より拝領した着衣姿で描かれています。



越智透遺稿・志濃夫遁舎歌集



第1展示室

曙露は日々の生活の中にも楽しみを見つけて出している歌にしました。「独楽吟」は曙露が貧しさの中にも自然のままに生きた生活そのものを表しているものといえるのではないのでしょうか。3首をとり上げてみました。

たのしみは珍しき書人にかう
初め一からかろげたるとき
たのしみはまれに魚充て先等皆が
うましうましと言ひて食ふとき
たのしみは機おうたてて斬しき
ろも縫ひて表が着する時

庭園に曙露と健子の親子像

庭園には、曙露の三女健子が健康であった時の親子のむつまじかった様子を表した「親子像」が建っています。

曙露は長女、二女とを先後間なく亡くしてあり、天保12年(1841)三女の誕生は、一家にとって大変な喜びでした。今度こそ元気に育つてほしいと願う健子(たけこの)と名づけ、可愛がって育てました。弘化元年(1844)2月、健子はその年流行した痘毒にかかり、願ひも空しく4歳でこの世を去りました。



曙露・三女健子像(当館庭園)

年号	西暦	年令	事	項
文化9	1812	1	5月、現・福井市つくも町に父貞正玄家の長男として生まれる。	
文化10	1813	2	10月、母健子に死別。母の実家、現・武生市大工町山本平三郎に養われる。	
文政9	1826	15	5月12日、父五郎右衛門没す。享年44歳。	
天保3	1832	21	曙露、可多郡西大直日蓮宗妙善寺住持明専に漢学・仏学などを学ぶ。	
天保7	1836	25	曙露、三國津津津酒井清兵衛の次女直子(17歳)と結婚。 この頃母という字が福井県、古体の歌を詠く。曙露は中興會、 笠原白翁らと国学の学問を始める。	
弘化元	1844	33	飛騨高山に田中大秀を訪ねて入門。	
弘化3	1846	35	家産・家業を真母弟直に譲り、妻子とともに足羽山の麓松原 眞金 舎に隠棲。(「小信」は天保10年、26歳とする)	
慶永1	1848	37	眞金舎から現・福井市南子と「白」(曙露)に転居。終生ここに住む。	
安政5	1858	47	中根鷲江の意により万葉集歌36首を曙露遺稿中の巻腰に送る。	
万延元	1860	48	3月、富田礼尊を野山名録山に訪い、しるがねの歌百首を詠む。	
元治元	1864	53	正月、松平春政より出仕をすすめられるが辞退する。	
元治2	1865	54	「独楽吟52首」このころ作られる。	
慶応4	1868	57	2月26日、春露、突然曙露を訪れる。曙露を命により志濃夫遁舎 に改める。	
明治11	1878		日月26日、没す。現・福井市田ノ谷町万松山大安禅寺に葬られる。 曙露遺稿「橘曙露遺稿・志濃夫遁舎歌集」出版。	

(注) この年譜は上坂紀夫著「清貧の人徳曙露」から引用させていただきました。

若狭最大級の夏祭り

高浜「七年祭」をみる

高浜町宮崎に鎮座する佐伎治神社の式年大祭「七年祭」は、巳年と亥年ごとに旧暦6月卯の日から酉の日までの7日間行われます。近年は海水浴シーズン等との関係で新暦6月に行われ、本年は6月21日、27日の1週間にわたり、3基の神輿の巡幸、太刀振、お田植、神楽、7基の曳山などの芸能が披露され、町中が熱気に満ちた賑わいで、7年に一度の若狭地方で最大級の夏祭りを盛り上げていました。

七年祭の舞台となった佐伎治神社
―高浜町宮崎



▲海に入ってから清めの儀式「足洗い」で神を閉じます



▼鳥居浜で激しくぶつかり合う神輿
―6月27日夕刻

七年祭の由来

七年祭りの起源については、地元に残るいくつかの言伝えをめぐって諸説がありますが、逸見駿河守、山内一豊、浅野長政などが高浜の領主をつとめた時期に始まったという説が代表的なものです。多少の前後はありますが、いづれも中世末期、織豊期としています。史料による記録では、運歌餅里村船田の「天橋立紀行」中に永禄12年(1569)6月19日に高浜祇園会を棟敷で見物したとあります。

元禄期(1688~1703)に著された「若狭郡果志」には、元和(1615)から正保2年(1645)にかけての七年祭のことが書かれています。

祭りを追って…

祭りの初日(21日)は、神幸祭の日で、早朝より各山元に区長、誓圓、駕籠丁、芸能出演者らが集まり、御幣をつけた「ツシ」を先頭に各山毎に行列をつくって神社に集合します。

3基の神輿が御座する能楽殿の前では、各山の太鼓が激しく打ち合いを演じ、若者達の勢がしばらく続きます。

午前8時半、拝殿で神幸祭が進行され、その間、境内では、県の無形民俗文化財の「お田植の神事」が奉納され、続いて「太刀振神事」が東山、西山、中ノ山の順に奉納されます。

午後1時頃、「神輿おろし」と称して、中ノ山、西山、東山の順で、3基の神輿が神社を出発します。駕籠丁たちは、氣勢をあげ、勇み立ち、20分ほど境内を練り回って、やっと抜き出る形で担ぎ出し、街中へと入っていきます。神輿おろしには、昔「けんか祭り」の異名をとった祭りで、熾烈な先陣争いが満じられたといわれています。

町中を巡幸した神輿はそれぞれの山元(御旅所)にまつられ、1週間そこに留まり、

神幸祭、大太鼓の演奏で始まる



（中ノ山）
氣勢をあげ担ぎ出す神輿おろし

七年祭の組織

佐伎治神社の氏子は、18区2班が3基の神輿ごとに東山(稲田姫命)、中ノ山(素戔嗚命)、西山(大國主命)に分けられます。神輿担ぎ(駕籠丁)には、20~30代を中心に男子があたり、誓圓には、区長や役員をはじめ年記者が、自前の神に身をつつみ担当します。

太刀振・お田植・神楽・曳山などの芸能は、3分された地域の下にある各区が担当する重層的な構造になっています。

七年祭の年が明けると、宮司をはじめ氏子総代や区長らが出席しての初審査で七年祭の日程が決定されます。その後、各段階において準備が進められます。

豪快・勇み立つ神輿おろし(初日)

鳥居浜で神輿乱舞(最終日)



中ノ山の太刀振・「伊達風俗」演ずる若者



「藤の標」を演ずる東山の太刀振

「藤の標」を演ずる東山の太刀振。若者は、未婚の20歳前後の若者が選ばれ、7名がとめました。演じられるのは、いづれの番組演出にも、台詞はなく、「ア」「マ」「ア」などの掛け声のみですが、歌舞伎等の名場面を思



お田植「ごよがの」を奉納する事代区の若者と子供たち

す。祭りの二日目(22日)、7基ある曳山(横町・赤尾町・本町・今在家・中町・大西・若宮)が午前9時、神社境内に集合し、屋台芸を奉納します。曳山は2層仕立てで、1階にはお囃子を演ずる若連中が乗り込み、2階は化粧に花飾りで彩った子供連が、歌にあわせて、踊りを披露します。祭りの最終日(27日)は、選挙祭といわれ、朝から3基の神輿が高浜地区内を巡幸し、午後4時頃までに神社に到着。境内では、大太鼓の朗演や太刀振などが奉納された後、午後6時過ぎから神輿は次々と鳥居浜海岸に移ります。神輿は若衆連の大きな掛け声とともに砂浜を縦横無尽に乱舞し、3基が揃って「けんか祭り」の異名に負けず、神輿同士が激しくぶつかり合い、互いに最後の氣勢を上げます。周囲を取り巻いた約1千人の見物客は、その爽快な圧巻に魅了されていました。その後、神輿は海へと担ぎこまれ、「足洗い」の儀が行われ、7年に一度の宴に幕を下ろします。



7基の曳山 神社前に勢揃い



舞台上で踊りを披露する子供たち

県無形民俗文化財指定 「太刀振」・「お田植」をみる

「太刀振」は刀や薙刀・棒などを持った2人から数人の者が相対して切り組みを見せる芸能です。7年祭りでは中ノ山、東山、西山それぞれ太刀振があり、中ノ山と東山のもの、県の無形民俗文化財に指定されています。

「太刀振」は刀や薙刀・棒などを持った2人から数人の者が相対して切り組みを見せる芸能です。7年祭りでは中ノ山、東山、西山それぞれ太刀振があり、中ノ山と東山のもの、県の無形民俗文化財に指定されています。

「太刀振」は刀や薙刀・棒などを持った2人から数人の者が相対して切り組みを見せる芸能です。7年祭りでは中ノ山、東山、西山それぞれ太刀振があり、中ノ山と東山のもの、県の無形民俗文化財に指定されています。

「太刀振」は刀や薙刀・棒などを持った2人から数人の者が相対して切り組みを見せる芸能です。7年祭りでは中ノ山、東山、西山それぞれ太刀振があり、中ノ山と東山のもの、県の無形民俗文化財に指定されています。

わせる洗練された動きを披露し、観客を魅了していました。東山の太刀振は、圓部を中心に若神、笠原の東部若連中によって演じられます。東山の太刀振も中ノ山の太刀振と同じように芝居仕立てになっており、「三石座」「権左院」などの外題の付いた番組が披露されます。東山の太刀振の動きには、中ノ山様の派手さや激しさはありませんが、「引き太刀」と呼ばれるような型、構えといったものを大切にしたいと若者が自覚しています。西山の太刀振は、子生、中寄、畑、立石の4区が交代で、山元となった区が担当します。太刀振は子供連がつとめ、若者が大太鼓、「大太刀」には、厄年前後の紋付袴姿の大人2人がつとめます。

お田植神事

厳粛に奉納

7年祭りの伝統芸能の一つ「お田植」は事代区が担当し、祭りの初日、トップを切って神社で奉納されました。若者や子供連が歌と簡単な所作で田を耕し、早苗を植える様子をあらわす格式高い芸能で、県無形民俗文化財に指定されています。

お田植は2部構成になっており、第1部は「割世がの」といい、8人の青年が参加、うち6人は木製の鍬を、2人は柄振(田をならす道具)を持ち、服装は、揃いの着物に角帯をしめ、白い幅広のタスキを右肩から左脇にかけ、頭には白鉢巻、足は黒い御絆と白足袋に下駄履の姿で登場します。8人のうち1人が首領取りとなり、もう1人が音頭を和し、交互にゆっくりと囃えるように歌いながら、一同が円陣をつくって緩やかに舞います。

第2部は「大田植」、「小田植」と移ります。「大田植」は神主と早乙女の養林で可憐な歌問答です。神主役は3人の青年で扇帽子をかぶり白衣を着、厚歯の下駄をはき、手には御幣を持ちます。早乙女は、4-8歳位の幼児で男女約20名位で、揃いの着物に紅だすき、花笠をかぶって登場します。3人の神主が竹の長い御幣をおしいだきながら祝詞を歌うと柄振持ちが加わり土のならす所作をします。

「小田植」も神主と早乙女の問答形式で歌われ、問答を繰り返して田植への所作をします。

お田植は、祭りの初日に神社で奉納したあと、2-3-4日目にわたって街中を巡り各御旅所や本陣前で演技を披露します。

本記事は、取材のほかに、高浜町教育委員会編集・発行の「高浜町の民俗文化」を参考に記述させていただきました。

◆ 事業別内訳 ◆

大別	事業名	団体数	助成金
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化保存伝承事業	17	3,330
	市民文化団体等活動事業	40	7,150
	国際文化交流事業	3	800
	文化のまちづくり活動事業	8	1,800
	文化アドバイザー派遣事業	1	830
ボランティア活動事業	ボランティア団体活動事業	12	1,450
	各種文化サークル活動事業	16	1,800
	環境保全等地域づくり事業	5	750
芸術文化の振興事業	芸術公演開催事業	3	1,300
	市民参加型芸術文化活動事業	11	2,980
	新人芸術家の創作発表活動事業	1	300
計		117	22,290
高等学校総合文化祭等育成支援事業		1	1,500
合計		118	23,790

文化団体を 118 団体 総額 2,379 万円

財団では、平成13年度助成事業について本年3月から5月1日にかけて、財団助成事業取扱規程及び13年度応募要領に従って助成申請団体を公募してきました。

その申請を5月1日で締め切り、4月5日と5月28日の2回にわけ、選考委員会を開催し、慎重な審査の結果、118団体に対し、総額2379万円を交付することを決めました。

その事業別内訳は左表のとおりです。

本年度より応募は推薦制公募方式に一本化したことで、市民文化団体等の活動事業が大増えました。

同委員会では、15年度に本県で開催されることが決定した全国高等学校総合文化祭に向け、準備活動を進めている県内総合文化祭の各分野別活動を支援するため昨年度に続き、県高等学校文化連盟に助成金を支給することを決めました。

13年度

財団助成事業決まる



県観世能楽会秋季大会を兼ね、人間国宝・茂山千作師を招いた「狂言を楽しむ会」＝福井市能楽堂



美浜町弥美神社例大祭に奉納する舞の舞（保存会に助成）



悲恋物語万葉講演会（会場「たけふ」）による万葉歌の会場後、浜村淳氏が講演＝武生市

平成12年度に行われた上記の文化活動に協賛し、それぞれ助成支援を行いました

すべてボランティアの手で



紙芝居をみる文庫の子供達

念品を贈るようになり、公民館に定期的に「母と子のさわやかサロン」を開設して、ふれあいの輪を広げることが計画されています。とボランティア活動の新しい取り組みに原動力を感じていました。

平成11年3月、地域の子供達に読書をもっと楽しんでもらうと、文庫を世話するボランティアを募集。応募した13人が参加して、福井市明新公民館「さわやか文庫」（現在、会員18名・代表 三下美奈さん）がオープンしました。まず、地区民から寄贈された図書約3千冊を整理し、手づくりの書架を図書室に配置。県立・市立図書館の貸し出し文庫から児童向け図書など千冊を借りつけ、3ヶ月毎に新書などに交換し、毎週土曜日の午前中、図書の貸出し業務を行っています。また第2、第4土曜日には、紙芝居や絵本の読み聞かせ会を開き、毎会60人程度の子供達や父兄が集り、楽しい一刻を過ごします。文庫の特別企画として、7月には文庫オープン記念の集いやクリスマス・春休みにも集いを開き、子供達の交流を深めています。

これらの企画・運営は、役割を分担して、すべて会員のボランティアの手で行われています。

この会の代表の三上さんは、「今年から子供達に図書カードを発行して、この成果表で多くの本を読む子供に記念品を贈ることにしたり、公民館に定期的に「母と子のさわやかサロン」を開設して、ふれあいの輪を広げることが計画されています。とボランティア活動の新しい取り組みに原動力を感じていました。」

「さわやか文庫」

福井市・明新公民館

がんばっています・ボランティア

敦賀市立博物館所蔵
逸品絵画誌上展

5

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。今回も所蔵逸品絵画2点を紹介することにしました。

瀑布登鯉図

鈴木松年筆



柳汀飛蛭図

塩川文鱗筆



滔々と水勢すさまじく落下する大滝に、垂直にせびれを立て懸命に登る鯉の勇姿を描いています。深山峡谷にかかる滝に、緑青の色彩はえる楓枝を配し、濃淡ある墨条線を使使して、瀑布の水流を昇事に表現。垂直に登る大鯉の躍動感も透徹した写真描写の成果から生まれたものといえましょう。

【解説】

鈴木松年は円山派の画家、鈴木百年の子として京都に生まれました。幼名百太郎、初め百鶴と号しましたが、のちに松年と改めました。明治13年(1880)京都画学校の創立に尽力し教員となり、各種の展覧会の審査員を歴任。京都天竜寺など大寺院の襖絵を揮毫しています。本図は大正元年(1912)64歳の作品です。大正7年(1918)70歳でこの世を去りました。

水流に垂れる柳の枝の間を、蛭がどこからとなく飛び交い、あるいは休止して蛍光を点滅させる情景を描いています。

文鱗の夜景描写には定評がありますが、この図もそれに値する構図で、巧みに表現しています。

【解説】

塩川文鱗は享和元年(1801)京都で生まれ、字は十瑞、号は文鱗の他に竹嶺、竹嶺、木仏庵、泉雨などを称していました。四糸派の岡本豊彦に学び、とくに雨中山水、暮景山水を得意としました。安政2年(1855)55歳で新御所の障屏を描き、万延元年(1860)60歳で皇女和宮降嫁の御用画を、明治6年(1873)73歳で新皇居造営を揮毫しました。文鱗の門下には京都画壇の指導者であった幸野探嶺(本誌の9号で紹介)があり、その模範門からは多くの逸材が育っています。

三好達治 (三国町)



シリーズ1 福井の文学碑

シリーズ1



三国は「わが心のふるさと」

漂泊の旅の中で、三国を「わがふるさと」と語った詩人三好達治は、明治33年(1900)大阪市に生まれました。大正14年(1925)に東京大学に入學、在学中より同人雑誌「青空」に参加するなど旺盛な文学活動を始めました。昭和5年(1930)処女詩集「測量船」を刊行、昭和の詩壇に清新な風を吹込みました。昭和19年(1944)3月、三国町加戸出身の美術

春の岬旅のをはりの鳴どり
浮きつつ遠くなりけるかも



処女詩集「測量船」の巻頭詩「春の岬」の文学碑
—荒磯遊歩道・東尋坊寄り

評論家森田氏の紹介によって当時の詩島村(現三国町)米ヶ崎に移り住みました。その仮寓の目的は戦火を避けて文学に専念するため、長い間恩慕の人であった萩原アイ(翔太郎の妹)と同棲するためでありました。その時、達治は44歳、アイ40歳、2人の安穩な生活もしばらくで、翌20年9月には別居したといわれています。達治の三国滞在期間は、昭和24年(1949)2月までの5年間でしたが、その間に出版された詩集は「花塵」「故郷の花」「砂の音」「日光月光集」など数多くの優れた作品を発表しています。また、彼を慕って集まる文学愛好の若者にフランス文学を説いたりして強い影響を与えました。三国を離れた後も昭和29年(1954)に福井県民歌を作詞するなど福井県と深くかかわりました。

漂泊の詩人といわれた達治は、生涯を通じて日本各地を旅しますが、昭和39年(1964)63歳で一生を終えます。

三国に3つの文学碑

三国町には、三好達治の文学碑が3つ建てられています。一つは荒磯遊歩道の東尋坊寄り、松林北端の位置に、



三国をうたった「荒天落幕」の詩碑—東尋坊北側園地



達治の書斎を復原展示—三国町郷土資料館

東尋坊の磯島の全貌を望むことができる北側園地には、大理石に刻まれた文学碑が建立されています。達治が三国に仮寓中に刊行した詩集「故郷の花」の中にある三国をうたった「荒天落幕」の全編が刻まれています。「…戦ひやぶれし国のはて／＼われひとりこ杖を挿ひ／悲歎し感傷をほしままにす」と記され、達治が仮寓した頃の灯台や河口の夕暮れの風景を散戦の悲しみと共に孤独な思いを込めて感傷的にうたったといえます。この碑は、平成元年3月、東尋坊整備事業の完成を記念して三国町が建立したものです。

3つ目は達治寓居跡(当時森田家の別荘「米ヶ崎」)に建てられた詩碑があります。「わが庭の秋のあわれは ふと在りて 風に流るる くれなゐの花をとらえし あせつかぬ」(「日光月光集」)が刻まれています。この詩碑は、北陸電力創立40周年記念事業として建てられました。



「日光月光集」中の「秋庭飛花」を刻んだ詩碑
—米ヶ崎・寓居跡



神社拝殿から出発する柴神輿

柴みこしの由来

この村の開拓の頃、村の上に深い森があり、そこを「神の森」と呼ばれていました。それがいつの頃からか、現在の宮の小谷に社殿が創建された時「神の森」の神様を遷座されたといわれています。その時、神輿がなかったため、山からブナやシテで若葉の枝を集めて、神輿を作り、御神霊を迎え

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

福井県指定無形民俗文化財 じじぐれ祭り

美山町
河内

850年の伝統をもつといわれる「じじぐれ祭り」は、本年も5月5日、足羽郡美山町河内の住吉神社で、同区あげての祭事として厳粛に行われました。

この祭りは、芝神輿（せがひ）づくりや渡御の神事など古代祭の原形を継承しているといわれ、福井県無形民俗文化財に指定されています。

てお移した儀式が祭りの神事として今に伝えられたものといわれています。

じじぐれ祭の名称は、足羽川の上流、部子川の流域に「ぢぢぶり祭」が行われていたといわれており、この「ぢぢぶり」がなまって「じじぐれ」となったらしい。「ぢぢぶり」は春の季節に心をふるいおこすことと「春の喜びを感謝する祭」といわれています。祭の別名は、青山祭、かあか祭、千代千代祭ともいわれています。

みこし作りも文化財

祭りの朝6時、太鼓の音と共に、神社馬屋前に村の男衆が集合。柴みこしの材料となるブナ、シテ切りや依代（よしろ）切り作業のため、トラックで周辺の山奥まで出かけます。神輿の材料を収集して山から帰ると、拝殿で、台座作りの作業に移ります。

台座作りは、両にかつぐための丸太棒を4本、井桁に組み、神輿の本体の下にシテの枝、上方にブナの枝をさし、細いグンドフジのつるで結わえ、青々とした柴神輿を完成させます。神輿の中央には、御神体として高蒲、こぶし、つばき又は山ぶきの花で構成する「依代」をまとめて挿します。



河内住吉神社の鳥居とけやきの巨木

千代千代 千代の 花のこめて山 それ…

柴神輿には、釘や縄は使用せず、古い技術を伝えています。

午後2時、氏子一同が拝殿に集まり、神主による神事が行われ、拝殿に据えられた柴神輿は太鼓を合図に、法被姿の男衆がかつぎ「千代 千代 千代の 花のこめて山 それ そわかし」の神歌を歌いながら



境内広場で高くさし上げ勇壮に舞う神輿



柴神輿の中央に高蒲、こぶし、つばき、山ぶきで「神の依代」を挿入します

解体神事でクライマックス

拝殿の中で3回初舞いを行います。その後、拝殿を出て、神輿を上下に揺るがして、境内の長い石段を降り、鳥居前の広場で、10数人の男衆が交代しながら、神輿を揺り上げ、差し上げ、舞い狂います。そして、参道入口にある2本のけやきの巨木の間をくぐり抜け、区内の道路を威勢よく練り歩きます。神輿の渡御は、村の旧道を通り、昔から定められた旧家の庭をめぐる、お祝いをうけながら渡御を続け、再びけやきの巨木の間と鳥居を通過して拝殿に還幸します。

拝殿に戻ると神輿解体の儀式が始まります。神輿を拝殿中央に据え、御神酒を供えて一同拝礼、太鼓を合図に男衆達は、柴神輿に飛び乗り、神の依代を激しく奪い合います。これは年占いの意味がこめられていて、祭りの最後のクライマックスとなります。

依代の花が神輿にかえされると柴神輿はそのまま山際に移され、秋祭り（9月15日）の宵宮の晩に燃やすことになっています。



美山町河内区は、福井市から国道158号線を、足羽川にそってさかのぼり、上新橋で治田町方面に曲がり、西河原から橋を渡って約10キロ、上味見の谷の最奥で河内に着きます。現在戸数25戸の集落。

福井県出身の若手指揮者

齋藤 一郎の
世界音楽の旅

コンサート

県文化振興
事業団・
当財団共催

3/20

県立音楽堂

本県出身の指揮者、齋藤一郎さんと作曲家笠松泰洋さんが共演するコンサート「齋藤一郎の世界音楽の旅」(県文化振興事業団、当財団共催)が3月20日、福井市のハートホールふくいで開きました。オーケストラは、関西フィルハーモニー管弦楽団、ナビゲーターに女優の中嶋朋子さんを迎えた豪華な布陣で、齋藤さん自ら企画したトークショウを繰り広げるなどクラシック音楽の魅力を披露しました。

プログラムの1部では、ヨハン・シュトラウス2世喜劇劇「いもどり」序曲、交響詩「中央アジアの平原にて」など3曲を演奏。齋藤さんと中嶋さんのトークで欧州各国のイメージを色濃く盛り込まれた名作の歴史的背景や音楽的表現に楽器のフレーズを弾かせるなど分かりやすく解説。音の絵画のように美しく、時には力強く、弾力性に富んだ旋律を披露し、齋藤さんの描写的な表現が際立っていました。



2部では、笠松さんの新作「アガメムノンとカッサンドラ」が初演披露され、これは、ギリシャ悲劇に題材した作品で、自らトルコの民族楽器スルナと葦のリードで楽器ジブシを吹奏。

中嶋さんの迫真に満ちた朗読でドラマの中へと誘いこみ、オーケストラの演奏と一緒に、歌のないオペラの世界を表現していました。

最後、アンコールにこたえ、ブラームス「ハンガリー舞曲」第5番で締めくくり、会場約9百人の聴衆から大きな拍手が送られました。

①音楽の旅を語り合う齋藤一郎さんと女優中嶋朋子さん
②齋藤さんの指揮で演奏する関西フィルハーモニー管弦楽団



▲長嶺ヤス子さんとスペインダンサーの熱演
フィナーレに拍手喝采に応える出演者

抱き合い、天国へと昇っていきます。一この物語に添って、火の踊り、裸足の舞姫、一期一会の踊りなどダンサー・ヤス子の熱演が続き、また共演ダンサーの好演やその国の民謡を歌うボーカル、ギター、ベース、ドラムなどのバック音楽の調べにマッチして、連続約2時間熱気に満ちた舞台に、集った約900人の観客は陶酔の域に引き込まれ、フィナーレには、惜しめない拍手喝采が湧き上がっていました。



財団では、フラメンコダンサーでアーティスト長嶺ヤス子さん一行を招き、6月14日敦賀市民文化センターで「ヤス子・炎・フラメンコ」と銘打ったげんでんふれあいコンサート(日本原電協賛)を開きました。

フラメンコの本場であるスペインからはダンサー、ボーカル、ギタリストら楽団一行が出演。創作舞踊「あるジブシーの女」が演ぜられました。

ストーリーは、一亡き夫の愛の思い出に始まり、若い恋人の登場で新しい恋が深まり、それを妨げる夫の亡霊、女は踊る亡夫を見て女の本心に気づきます。若い恋人の逆上で、思いがけなくも利し殺され、霊となった女は、やがて立ち上がり、夫と

「ヤス子・炎・フラメンコ」

げんでんふれあいコンサート

敦賀公演

6/14

福井県神社明細帳(嶺南編)
若狭路文化研究会と財団共同発刊

明治の原本使い
神社の由緒など紹介

若狭路文化研究会(会長・金田久博氏)が2年がかりで編集してきました「福井県神社明細帳(嶺南編)」を、このほど当財団と共同で出版しました。

この明細帳は、明治の初期、当時の内務省の指令で県が作製した「福井県神社明細帳」の敦賀郡109社と「若狭国神社明細帳」に記されたら13の神社の所在地、社名、由緒、祭神、境内坪数、信徒数などについてまとめた帳簿で、1頁4分の1に縮刷し、原本のまま載せています。

明治末期から大正初期に推進された神社整理政策で盛んに合併が行われたため、繰りつぶされたり、全体に斜線を引いて消すなど加筆修正された箇所もあり、各神社の変遷の様子を知ることができる文献史料となっています。

巻末では、神社統廃合の基準などについての解説や神社の名前数などをグラフで紹介。622社の合併の有無や合併先などについて一覧表にまとめています。

図書は、A4判、523頁、500部を印刷。県内の行政機関、図書館、博物館、資料館などに配布しました。



影印本
福井県神社明細帳(嶺南編)

作家 落合恵子さん

文化講演会

7/8

県生活学習館



心のこもった人生観を語る落合恵子さん
＝県生活学習館（ユニー・アイふくい）

財団では、福井県連合婦人会と共催（日本原電協賛）で、作家の落合恵子さんを講師に招き、7月8日福井市にある県生活学習館（ユニー・アイふくい）で文化講演会を開きました。

講演会には、同会の会員ら約700名が会場を埋め、講師は「こころの居場所」を演題に、高齢化社会における生き方や男女共同参画社会への対応など人生観を中心に海外の著名人の名言や自らのふれあい活動の実例をあげ、心のこもった講話を披露しました。

最後にテープに吹き込まれたキャロルキングの歌「Love Story」（私の友達）を会場に流し、人生の叙情詩を自らの翻訳朗読して、会場の聴衆の心を引きつけました。締めくくりにして「人生には賞味期限はありません。お年寄りの顔のしわ、は人の成長の証しで、人生の地図でもあります。また、人生は自ら拓いていくものです。」と流暢な弁で、これからの人生論を提起して、会場から大きな拍手をあげました。

5/10~13

福井先人の思い書・詩歌
福井墨彩会30周年書道展 県立美術館



床面に並べられた共同作品

書道研究グループ福井墨彩会（西山隆雄会長）の創立30周年を記念する書道展「郷土福井を書く」（当財団協賛）が5月10日から13日まで4日間、福井市の県立美術館で開催されました。郷土福井の先人や著名人の熱い思いを県民に広く伝え、郷土愛を深めてもらうと初めて企画されたもので、同会の会員72人が万葉の昔から21世紀の今日までの政治、経済、宗教、文学、美術などそれぞれの時代、分野で活躍した約50人の印象に残る言葉や詩歌などを選び、計104点を多様な表現で仕上げた作品が出品されました。特に、展示場の中央、対角線に横切って並べられた共同作品では、江戸時代から現代までの著名人の言葉などを時代順に紹介、宇野重吉の文章や五木ひろしの歌の歌詞にいたるまで、多彩な書表現を駆使して書かれた作品に注目が集まり、4日間で2千人を超える人達が訪れました。

敦賀市文協40周年記念

おくのほそ道文学碑除幕

5/19

敦賀市



除幕した芭蕉の「おくのほそ道」文学碑

「おくのほそ道」の原本とされ、敦賀市新道の西村家が所蔵する国の重要文化財「素龍清書本」を忠実に再現した文学碑が、敦賀市文化協会が1

日、関係者約60人が出席して、その除幕式が行われました。

この文学碑は、敦賀市文化協会が1昨年創立40周年記念事業（当財団協賛）として「おくのほそ道」の教養くんだり、一氣比文節一本石碑に刻んだものです。石碑は御影石製で横2・7米、高さ1・4米。芭蕉が奥の細道の旅で元禄2年（1689）8月14日敦賀に到着した時、氣比神宮に参拝し、遊行上人が土砂を運んで参道を造ったという伝説を聞いて詠んだ有名な句「月満し遊行のもてる砂の上」などが刻まれています。

大正琴コンサート
北陸音楽学院が開催

7/1

福井市



指揮者西村真一郎氏のトークを交え
メイツ・アンサンブル名曲を披露

音楽活動を通じて仲間づくりや生きがいの促進を目指す北陸キー・ハーブ音楽学院主催の「キー・ハーブメモリアルコンサート」（当財団協賛）が7月1日、福井市のフェニックスプラザで開催されました。

コンサートは、4部構成で、西村真一郎氏の指揮のもと、講師と上級クラス生らによる合同演奏「憧れのハワイ航路」で幕を開け、精進流しなどのナツメロを次々と披露。第2部では、県内の公民館教室などでの受講生が「荒城の月」「エデンの東」などの名曲で1年間の成果を発表しました。

第3部では、特別出演した村山有希子さんがエレクトーンでザ・ピーナッツメドレーを迫力ある旋律で独奏し、喝采を浴びました。最後には、講師らがアンサンブルを構成し、赤とんぼや陽（すばる）など8曲を演奏し、大正琴独特の美しい音色に会場を埋めた約600人の聴衆から盛んな拍手が送られていました。

第4回

作品募集

テーマ

21世紀に伝えたい

ふるさとのお宝

福井の自然・歴史・文化を求めて



第3回ふるさと大賞作品 「梅雨に咲く」廣部保和氏（敦賀市）

締め切り **12月14日(金)** 当日消印有効

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
 後援：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会
 (社)福井県文化協議会／福井県高等学校文化連盟／福井新聞社
 福井放送／福井テレビ／福井ケーブルネットワーク
 協賛：福井県カメラ商組合／富士写真フィルム(株)／(株)福井フジカラー

写真コンテスト
2001

ふるさと大賞 1点……30万円
 ふるさと賞 3点
 学生5万円1点／一般10万円1点／女性10万円1点
 優秀賞 6点
 学生3万円2点／一般5万円2点／女性5万円2点
 入選 35点 (記念品)
 学生5点／一般20点／女性10点
 佳作 35点 (記念品)
 学生5点／一般20点／女性10点

部門 学生部門(高校生以上)・一般部門
 一般女性部門の3部門

資格 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
 2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格 カラー・モノクロで四つ切り
 又は四つ切りワイドの単写真
 (学生は六つ切り可)

応募先 1) 〒914-0051
 福井県敦賀市本町2-9-16
 (財)げんでんふれあい福井財団
 2) 福井県カメラ商組合加盟店
 及び県内フジカラー取扱店

審査員 審査委員長：八木隆氏(写真家)
 ほか

結果発表 平成14年1月下旬

表彰 平成14年2月7日(ふるさとの日)

財団イベント INFORMATION

桜成ウインドオーケストラ演奏会	福井県文化振興事業団主催 当財団協賛	10/14(日)	福井市・ハーモニーホールふくい
狂言を楽しむ会	人間国宝 茂山千作師1門	10/16(火)	敦賀市・プラザ萬象
第5回 福祉演芸会	マジック&歌謡ショー	10/23(火)~25(木)	敦賀市・小浜市・坂井町・福井市・大野市・朝日町 にある県内6福祉施設
げんでんふれあいコンサート	中島啓江の「夢で会いましょう」	10/28(日)	福井市・ハーモニーホールふくい
文化講演会	バイヤーヤンジン(チベット人歌手) の「トーク&コンサート」	11/6(火)	敦賀市民文化センター

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>

「げんでんふれあい福井」第10号
2001年7月発行

(発行) 財団法人 げんでんふれあい福井財団

〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番地16号(日本原子力発電福井地区本部4階)
 TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070